

第6学年 国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇小学校

教諭 〇〇 〇〇

1 日 時 平成28年11月〇日(〇)

2 学年・組 第6学年〇組

3 指導事項

(1) 話すこと イ

目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

(2) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(キ)

文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。

4 単元名 町の未来をえがこう

「町の幸福論—コミュニティデザインを考える」

5 言語活動 「よみがえれ〇〇の森プロジェクト

—〇〇の森を有効活用するアイデアをプレゼンテーションしよう」

6 単元の評価規準と目指す児童の具体的な姿

国語への関心・意欲・態度	話す能力	言語についての知識・理解・技能
助言や提案をし合い、説明をよりよいものにしようとしている。	アンケートやグラフ、図表などの資料を効果的に提示し、発表している。	文の中での語句の係り方や照応の仕方に気付き、いろいろな文の構成があることを理解している。
調べた内容を相手に伝わるように構成を工夫して伝えようとしている。	聞き手に考えを伝えるために適切な資料を選んだり、話の構成を工夫して発表したりすることができる。	文や文章にはいろいろな構成があることに気付き、目的に合わせた構成を理解することができる。

7 単元について

(1) 児童の状況

目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

児童は4月から1分間スピーチに取り組んでいる。初めは時間よりも早く話し終わってしまい、内容を付け足すような児童も多かった。しかし、徐々に時間への意識が生まれ、結論先行で話したり、ナンバリングを取り入れたりする様子が見られるようになってきた。5月に行った「新聞の投書を読み比べよう」では、相手を説得するには自分の経験を交えたり、著名人の言葉を引用したりするなど

いろいろな述べ方があることを学習している。その後行った「意見と理由のつながりを聞き取ろう」では、主張に対してつながりのある根拠（理由）になっているかを考えながら聞くことで、より説得力のある理由や事例を挙げながら話すことの大切さについて多くの児童が気付くことができた。しかし、9月に行った「資料を生かして呼びかけよう」では、自分の主張に適切な資料を選択することのできない様子が見られた。文章を聞き取って主張と根拠の間にあるずれに気付く力はあるが、自分の主張に説得力をもたせて話すということについては経験が少なく、本単元においても理由や事例を挙げる際の情報の取捨選択が課題になると予想される。

文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。

児童は「新聞の投書を読み比べよう」と「イースター島にはなぜ森林がないのか」を学習した際に、文末表現などを頼りにして呼びかけや推定、伝聞などの文章の性質を判断することができるようになってきている。また、2つの単元の文章を比較した際には、どちらも意見文なのに、文章構成が全く異なっていることに気付くことができた。このように文章にはいろいろな構成の仕方があり、自分の述べたいことに合わせて工夫することができることを学んできている。しかしこれまでの学習の流れから、同じパターンに当てはめて文章を構成していく児童が多く、述べたいことに合わせて文章構成を工夫している児童は少ない。

(2) 教材の価値

この教材文は、「未来の町づくり」についてプレゼンテーションのように事例を挙げながら説明されている。説明と対応するように写真や図表が配置されており、児童がプレゼンテーションを作る際の文章構成の参考になると考える。また、本単元では言語活動として「よみがえれ〇〇の森プロジェクト」を設定した。教科書では地域の公園を扱っているが、児童がより身近な問題として考えられるように、「〇〇の森」の活用について考えていくこととした。自分たちの身近にある問題を課題として設定することで意欲の喚起・継続が期待できるだろう。

(3) 指導の工夫

指導の工夫①：明確な相手意識・目的意識もてる単元計画の設定

本単元では言語活動として「よみがえれ〇〇の森プロジェクト」を行う。第一次でゲストティーチャーの校長先生から「〇〇の森」の現状について話をしていただき、第二次で資料の収集・精選・構成を行う。そして第三次で校長先生に「〇〇の森」の活用についてプレゼンテーションを行う。相手意識をもつことで構成や話し方の工夫をし、目的意識を持って意欲的にプレゼンテーションに臨めるようにしたい。単元の中では、単元マップを用意し、プレゼンテーションの相手や目的について適宜振り返ることができるようにしていく。

指導の工夫②：グループの活用

主張と理由のつながりについて自分で考えて構成することは難しいが、友達の話の内容のずれには気付くことができるという児童の実態から、発表の前にアドバイス班を活用した事前発表会を取り入れる。聞き手の意見を取り入れながら修正をしていくことで、児童がより相手に伝わる構成を工夫で

きるようにする。また、集めた資料をグループで共有し合うことで、より自分の伝えたいことに合った資料を選ぶことができるようにしたい。

指導の工夫③：プレゼンテーションの構成を工夫できる教材の作成

これまでの学習と児童の実態から、どの班も同じような流れでプレゼンテーションを構成してることが予想される。聞き手の心を動かすプレゼンテーションにするためには構成への工夫が必要である。しかし、どのような構成の仕方があるのか分からない状態で工夫をすることは難しい。そこで、単元の中で「ミニプレ」の活動を取り入れていく。「ミニプレ」とは、テーマに沿ってグラフ・表・図などの情報を自分で組み合わせながら簡単なプレゼンテーションを行う活動である。構成のみに絞って考えていくことで、自分たちのプレゼンテーションの構成について関心をもち、工夫に繋げていくことを期待している。

8 単元の学習と評価の計画（全13時間）

次	時	学習活動	関	話	言	
第一 次	1	○校長先生から「〇〇の森プロジェクト」について話を聞く ○これからの学習の見通しをもつ。 ○プレゼンテーションの動画を見る。	並 行 読 書 ・ 情 報 収 集 ・ ミ ニ プ レ	○		
	2	○「町の幸福論」を読み、筆者の行ったプレゼンテーションの流れをおさえる。				○
	3	○簡単なプレゼンテーションを構成し、お互いのプレゼンテーションを聞き合う。(ミニプレ)				○
第二 次	4	○自分の伝えたいことをまとめ、構成メモを作成する。				○
	5	○伝えたいことに必要な資料を考え、収集する。				
	6	・伝えたいことと資料がつながっているかグループで確かめ合 う。 ・集めた資料をグループで共有する。			○	
	7					
	8	○共有した資料の中から使いたい資料を選択し、構成を考えまとめる。			○	
	9	○アドバイス班でのプレ発表会を行い、伝えたいことと資料がつながっているか確かめる。 ○付箋アドバイスをを行う。			○	○
10	○付箋アドバイスを取捨選択し、修正するものを検討する。			○		
11	○アドバイス班での修正発表会を行い、付箋アドバイスをを行う。 ○付箋アドバイスを取捨選択し、発表の最終確認をする。		○			
第三 次	12	○「よみがえれ〇〇の森プロジェクト」発表会を行う。	○	○		
	13	○学習のふり返しを行う。				

9 本時の目標

内容に適した資料を選択し、相手に伝わるように構成を工夫することができる。

10 学習展開 (三次 8 / 13)

学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1 前時までの学習を確認する	○単元マップでこれまでの学習を振り返り、プレゼンテーションの相手や目的を再確認する。	
主張に説得力をもたせる資料を選び、相手に伝わるような構成を考えよう		
2 班で共有した資料の中から自分の使いたい資料を選択し、説明を記述する	○資料を短冊形式で用意することで、並べ替えて構成を工夫できるようにする。 ○選んだ資料の内容が重複している児童にはそれぞれ資料の効果について振り返らせ、なるべく客観性のあるものになるように確認させる。自分で確認することが難しい児童には、グループの友達に相談してもよいことを伝える。	
3 資料を並べ替えて、伝わりやすいように構成を工夫する	○並び替えた後にアドバイスカードの項目を確認することで、資料の選び方や構成について自分自身で確認できるようにする。 C : 構成が難しい児童には、前時までのミニプレの構成を想起するようにさせる。	
4 プレゼンテーションの構成についてアドバイスを送り合い、必要だと思った部分には修正を加える	○主張と資料のつながりの聞き方については、既習の「意見と理由のつながりを聞き取ろう」の学習を想起させる。 ○修正の際、アドバイスを受けて修正する必要があるかどうか自分で判断させる。	A : 選択した資料を相手に伝わるように構成することができ、友達のプレゼンテーションの構成についても考えをもつことができる。 B : 選択した資料を相手に伝わるように構成することができている。

<p>5 本時の振り返りと、次時の予告</p>	<p>○振り返りカードに、作成したプレゼンテーションの工夫点を記述する。 工夫点が見つからないときは、友達のアドバイスカードの内容を参考にさせる。</p> <p>○次回は、「プレ発表会」を行うことを確認する。</p>	
-------------------------	--	--